



↑こちらのコードから色鮮やかなカラー版をご覧ください。



水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会
発行 富士見市立水谷公民館 住所 富士見市水谷1-13-6
TEL 049(251)1129・FAX049(255)9886・✉fkm-mi@coral.ocn.ne.jp

教えて！お父さんの子育て

6月は父の日があります。多様性が求められる現代社会、家族のあり方も多種多様です。ひとり親や同性同士のパートナーのもとで育つ子どももいます。大事なことは、子どもにどのような成長して欲しいかということでしょう。

ちやぶ台返しのお父さんの世代から、最近よく見かける抱っこ紐で赤ちゃんを抱いているお父さんまで、様々な世代の方からお話を伺いました。

編集委員 佐々木眞理子



「夫婦共に心をかけて」

休日は、子どもたちと公園で野球やサッカーで体を動かし、汗を流します。お腹が出てきたことを少し気にしている今日この頃ですが、運動後なのでセツト物の『そば&天井』も気にせず食べられます。

夫婦での楽しみは家庭菜園の作業やワインで晩酌することです。家事に子育て、仕事にと妻に負担がかかりすぎないよう『共に』を心がけています。

3人姉弟なので彼らの絡みを一歩引いて夫婦で観察するのも面白いです。

40代 Uさん



「元気に外で遊ばせたい」

水子貝塚公園竪穴復元住居の前で6歳の姉と2歳の弟、お父さんが、熱心に地面を見ていた先にはアリ。姉弟とも虫好きで、数年前に富士見市に越して来てから、虫探しやどんぐり拾いに出かけているとのこと。とにかく外で元気に育って欲しいと二人を見るお父さんの眼には優しさがあふれていました。

また、保育所や学童保育にも入れて、ファミリースポーツセンターの支援もあり、安心して子育てができるのが嬉しいとか。

横山さん、これからも子育てを楽しんでください。水子在住 横山さん(インタビュー 編集委員 佐々木)



子育て奮闘中 令和のパパ

「健康に育ってほしい」

6歳・4歳・0歳と3人の子どもがいます。食事の準備や掃除・洗濯などは夫婦で分担していますが、妻への負担が大きく掛かってしまっています。そのため、土曜日は家族で外出をして、妻には気分転換をしてもらっています。

こういう子に育てたいなどの目標は後回しで、とにかく健康で元気に育ってくれば良いと思っています。

水谷在住 Y・Kさん

「妻の時間も大切に」

平日は仕事に励み、休日にはみんなでピクニックに出かけたり、時には子どもたちと過ごす方法を考えるのもまた楽しい時間です。

ワイワイ騒々しい子育てでも楽しいですが、子どもを寝かしつけた後の静かな夫婦の時間・会話も大切にしています。

育ち盛りの男の子が3人いるので妻が一人になれる時間も大切にしながらあげたいと考えています。

30代 Tさん

「親子で楽しむ子育て」

子どもが成長していく毎日は、とても面白いです。こちらが言ったことをマネしたり、思いもよらない行動をするなど日々成長を感じながら子育てをしています。

子どもと公園などへ行く時『連れていく付き添い』ではなく、『自分たち大人も楽しく』をモットーにして楽しい一日を過ごしています。出費の多い子育てですが、時には自分のために少し奮発して好きな事に費やすことも妻は認めてくれます。

30代 Tさん

昭和時代 父の子育て

「厳格で働き者の父」

父は明治40年生まれで、厳格かつ働き者で「賭け事は一切やるな。賭け事で蔵を建てた人はいない」「稼ぎに追いつく貧乏なし」が信条でした。

私が新家(しんや)に出て間もない夏祭り(八雲社の天王様)の暑い日、あの頃は親子で八雲社に集まり神輿を担いで廻りました。神酒所には、飲み物や食べ物がたくさんあり、地域の一大イベントでした。昼にいったん皆家に戻り、3時にまた集まります。座敷で川の字になり昼寝をしていると、父が植木の刈り込みをしていました。「いつか刈ろうと思っていたが、こ

んな日じゃないとできねえんだ」と笑っていました。父と夜なべで野菜の荷ごしらえをしていたら「以前夜が明けてきてしまい、寝ずに朝飯かつこんでそのま

ま市場へ行ったことが何回かある」と言っていました。「いつ寝るんだよ?」と思いましたが聞くことができませんでした。

私が中学の時、友だちから借りた本を弟に汚されて喧嘩をしていた時、父のビンタが私の顔に飛び「兄弟仲良くしろ!」そんな父も88歳で天寿を全うして30年になります。今、兄弟は父の教えを守り、仲良く暮らしています。

水子在住 F・Aさん

「戦中から戦後へと変化する子育て」

私は大正14年生まれの父と昭和4年生まれの母の元で育ちました。両親とも優しく暴力を振るわれたことはありません。

小学生になると登校前に犬の散歩とニワトリの世話などが私の仕事で、寝過ぎした時は大変でしたが家族の一員として役割を与えられたことを嬉しく思います。幼児の頃から祖父母に「嘘をつく」と閻魔様に舌を抜かれる」とよく言われていたのを守っていたのですが、小2の時、初めて嘘をつきました。学校のスケート大会で1等になったと賞

品のノートを父に見せたのです。(実はノートは参加賞で、本当は4等でした。)その時の父の怒りは今でも忘れることができません。押し入れに閉じ込められ、しばらく出してもらえませんでした。(父はすでに先に帰宅した従兄弟から私の結果を聞いていたのです。)日頃から優しさにあふれていた父は戦中から戦後にかけての教育の変化や家族のあり方なども模索する中で子どもに対する期待もありません。この父の教えで今の私がいます。感謝の限りです。

水子在住 M・Sさん

